

## 学校図書館における不登校予防への取り組み －「高校内居場所カフェ」に着目して－

岡崎 那菜

近年、不登校児童生徒への対応として、不登校を未然に防ぐことが重要であるとされている。また、不登校への学校等の取り組みを支援するための教育条条件等の1つとして学校図書館の整備が掲げられている。一方で、学校図書館で具体的にどのような取り組みをすべきなのか明らかになっていない。そこで、本研究では「高校内居場所カフェ」に着目する。高校内居場所カフェによる不登校予防の効果を明らかにし、高等学校図書館において高校内居場所カフェを行うことの意義と役割について考察する。

本研究では文献調査と訪問調査を行った。文献調査では、不登校の特徴や発生要因、および、不登校を予防する取り組みである高校内居場所カフェの現状や意図、効果等について整理した。訪問調査では、半構造化インタビューにより高校内居場所カフェの実践の状況と効果の分析を行った。調査の対象は学校図書館において高校内居場所カフェを行っているA高等学校、および、多目的室において高校内居場所カフェを行っているB高等学校の高校内居場所カフェ運営団体スタッフ、担当教員、卒業生、学校司書とした。

文献調査の結果から、高等学校の不登校は問題が深刻化・長期化しやすいことがわかった。また、不登校の生徒以外にも「学校に行きたくない」という感情である登校回避感情を抱いている生徒は多いことが明らかになった。登校回避感情の具体的な要因としては身体的要因、学習意欲、無気力感、友人関係などの対人関係、教師との関係が挙げられた。高校内居場所カフェは、不登校等を未然に防ぐ取り組みとして広がりつつあった。訪問調査の結果から、高校内居場所カフェは課題も抱えていたが、登校回避感情のすべての要因に効果があることがわかった。中でも友人関係などの対人関係と教師との関係に対して強い効果があり、学校図書館で実施した場合、この2つの要因に対する効果が高まることが明らかになった。また、高校内居場所カフェを行う適切な場所の要素として教師や生徒が訪れやすいという点が挙げられた。さらに、学校図書館で高校内居場所カフェを行う場合、保健室と連携して不登校予防に取り組むことにより効果が高まる可能性も示された。

これらの結果より、高校内居場所カフェは解決すべき課題も多く抱えているものの、登校回避感情への効果等があることがわかった。学校図書館で高校内居場所カフェを行うことの意義としては、登校回避感情のうち特に友人関係などの対人関係、および、教師との関係に対する効果を向上させることが挙げられた。また、役割としては校内調整を行うことが挙げられた。これらの意義と役割を十分に発揮するためには、司書が常駐していることが重要であると考察された。さらに、生徒の訪れやすい、かつ周囲に職員室と保健室がある位置に学校図書館を設置することで、上述した意義と役割がより効果的に発揮されることが示唆された。

(指導教員 平久江祐司)